

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

所属学部	文学部		
所属学科・専攻	国際言語文化学科		

1. 留学先について

留学先大学名	Heidelberg University ハイデルベルク大学 (ハイデルベルク:以下HD)			
留学先所属学部等	Institut of German as a Foreign Language Philology 外国語としてのドイツ語学(独名略称:以下IDF)			
留学期間	出発日 2014/7/30	入学日 2014/10/1	修了日 2015/9/30	帰国日 2015/7/31
住居	<input type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他()			
	通学時間	15分		<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	トラム・バス・徒歩		
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> () 人部屋 <input type="checkbox"/> その他()		
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> リビング <input checked="" type="checkbox"/> その他(屋根裏)		
食事	自炊 65 %	学食 20 %	外食 10 %	その他 5 % (パーティーなど) *%で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMAセット型留学保険Bプラン		
	大学指定の保険(名称)	なし		<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他	学研災		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	成田	⇄	フランクフルト(飛行機)	⇄ ハイデルベルク(列車)

2. 留学にかかった費用について

総費用	2280000	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input checked="" type="checkbox"/> 貯金 500000	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親 900000	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/> JASSO 880000	円	<input type="checkbox"/> その他名称()			円
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他()			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	70000	円	<input checked="" type="checkbox"/> その他(国際キャッシュカード)	-	円
留学中	<input checked="" type="checkbox"/> 海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他 ()			

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	¥19521、銀行振込
住居にかかった費用	¥594000、銀行振込
その他	

2-3. 内訳 * 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	€	1333	179955	円
海外旅行保険	€	1044	140940	円
OSSMA	€	141	19035	円
査証・在留許可証	€	60	8100	円
住居	€	4400	594000	円
食費	€	3600	486000	円
通学に要する交通費	€	300	40500	円
教科書、教材費	€	80	10800	円
その他大学に支払った経費	€	144	19440	円
光熱費	€	家賃に含まれる、定額	-	円
その他 (通信費(携帯))	€	120	16200	円
その他 (旅行費)	€	4885	659475	円
その他 (その他)	€	740	99900	円
その他 (€計算価格)	€	1	135	円

3. 学業面

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

登録時期は学期の開始前後、事前の相談や初回授業の出席。登録方法は各学部ごとに方法が異なる。IDF(私の所属学部)では、事前メール、初回授業でリストへの氏名記入などだった。一部の学部では1~2週間前から登録やオリエンテーションがある。正規学生はシステム上での登録も行っているが、短期・交換留学生は基本的に不要。リストには氏名や学生番号、学部、千葉大学での専門科目やHDの学部の中で更に分けられるコースなどを記載する場合がある。記入方法は都度担当者に確認する。シラバスは大学の情報システムであるLSFのサイト内のVeranstaltungの項目、Vorlesungsverzeichnisから学部学科ごとに閲覧できる。学部のHPにリンクがある場合もある。授業内容、登録時期・方法及び成績評価、参考文献などの情報が、学期開始の約1か月前順次公開されていく。

千葉大のような一括単位登録システムではなく、Scheinと呼ばれるA5サイズ程度の証明書を各授業ごとに発行する制度であることに注意が必要。基本的には試験時・レポート提出時・授業期間終盤で自分の名前・学籍番号・誕生日・出生地・授業情報(学期・授業名・試験数・発表/レポートのテーマ)を記入して担当者に事前提出、後日試験やレポートと共に成績を記入しサインとスタンプを添えて返却される。証明書は学部学科によって形式や入手・返却方法が異なる。IDFでは授業最終回に返却されるか、学部事務室にある氏名順のBOXから回収していく。返却・回収時に本人確認等はされない。新入生や留学生が多い授業では該当時期に念入りに説明されることが多いように感じたが、基本的に提出・回収は自己責任。

3-2. 授業内容、方法に関して

内容や方法については担当者や学部の強みが反映されること以上の違いはなかったが、講義・演習に関わらず、学生が次々と発言していく印象。担当者に気づいてもらえるまで手を上げ続けている。質問が続いて授業の進行に影響がでる場面も多いが、担当者は授業中の質問を非常に歓迎している。授業終了後に質問するより、授業中に質問する方が印象がいい。参考資料や文献はMoodle上で配布されたり、メールに添付されたりとデータであることが多いため、授業中に気軽に使用できる薄型ノートPCやタブレット端末も持つ学生も多く、特に短期留学生にとっては非常に有用(持参物の項で後述)。出欠はリストへのチェックやサインで行うことが多く、担当者や学部によって厳しく管理されている。

試験やレポートについては、ポイントを絞って簡潔で論理的に、かつ一定の量を書くことが求められる。レポートは留学生向けの授業でもA4で本文5~8ページ程度の分量で、資料等の出典明記についてもチェックされる。IDFのレポートに関しては、提出時に剽窃・東洋などの研究倫理に関する誓約書を添付するよう求められた。

3-3. 語学力について

HDはドイツ語を中心に英語や日本語などをバランスよく使うことができる環境であり、貴重な経験ができる場所であると思う。留学生や移住者が多いため、街中では英語、時には日本語で話しかけられることも多く、第三、第四外国語を学ぶ機会もある。日本語の手書きをおろそかにしていたため、帰国後多少のリハビリが必要になった。

ドイツ語の専門用語については予めの予習が有用。シラバスやMoodleに、授業で扱わない参考文献が大量に紹介されていることも多い。時には日本語文献で広く浅く勉強することも効果的かつほどよい息抜きや日本語忘れ防止になる。実際には担当者ごとに話し方の特徴に慣れることが一番の壁になり、授業中に集中することと復習が肝要だった。発表においては発音の悪さからドイツ母語話者以外に理解してもらえない場面もあり、準備と練習に時間を多く割いていた。日常会話においては、Dudenなどの独辞書の活用、ドイツ語母語話者のタンデムパートナー(語学学習パートナー)との会話、趣味や関心のある事柄を通して楽しみながらドイツ語に浸かることができた。

英語もドイツ語に次いで、場合によってはドイツ語以上に使用頻度が高い。授業中においても、英語のドキュメンタリーやインタビューを見る際に字幕が見つからないことがある。多学部の学生が集まる場ではドイツ語が離せない人もおり、英語が公用語のひとつになっている。私自身は、大学ではドイツ語、シェアルームでは英語を使っていたため、混乱する場面も多かった。相手が気をつかって「英語で話す方がいいのか」と訪ねてくれた際に、正直に言うのとどちらとも返答できない、という時には気まずい思いをした。多言語を日常的に使うことで頭の中は非常に混沌とするが、貴重な経験ができたと思う。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館には本棚のある閲覧室の他に、PCやプリンターを使える部屋、自習スペースがある。蔵書の持ち出し防止のため、閲覧室にカバンを持って入ることはできない。カバンをロッカーに預けて手で荷物を運ぶか、貸し出しカウンターで販売しているような透明の袋(0.5~1€程度)を利用することでなかに入ることができる。ロッカーは1/2€硬貨を使うもの。一階のコピー機脇に両替機がある。

理系キャンパスがある地区にスポーツ施設がまとまっている。学期を通して様々なスポーツやプログラムが開講されており、多くは無料で参加できる。定員があるプログラムの申し込みは学期開始時。自由参加のものも多い。

学内の食堂は、「ドイツー美味しい」と絶賛する学生がいるほど充実している。定食式、ビュッフェ式、カフェ式など多様な種類があり、店員に学生も多く、非常に賑わっている。一食3€前後。川沿いにある一番人気のMarstall Mensaは昼休みには長蛇の列ができ、食堂は夜10時まで営業、施設は深夜1時まで平日開いている。スクリーンでのサッカー観戦や映画会などのイベントが頻繁に行われている。

3-5. その他

8月には、HD大学のサマーコースに参加した。派遣留学ではなく、個人で申し込むものだが、学生寮に入る場合には8月から続けて住めるように考慮してもらえる。ただし、サマーコース担当者、交換留学のコーディネーターへの事前相談、場合によっては更に現地で根気よく交渉する必要がある。

2014年に中級のクラスで使用した教科書はサマーコース独自のもので、HDの話や、留学生がより関心を持つようなテーマを集めており、非常に良い教材だった。講師はHD在住のドイツ人の他、全国から休みを利用して集まっている。私のクラスでは講師の方がHDの福祉関連の仕事をしている方で、語学以外の話を多く聞いたことが非常に良い経験だった。地元の学生がクラスごとのチューターについている点も魅力である。語学を初めスポーツや音楽などの様々なワークショップや、週末の日帰り旅行などの自由参加の催しも充実していた。

帰国後の予定の関係で、夏学期期間終了後には夏休みを待たずにすぐに帰国するつもりでいたので、学期前に夏休みを楽しむができてよかったと思う。

コース参加者は上記のような学内施設も利用できる。学内コピー・プリンター利用や学食での支払いは学生証やサマーコース参加者用カードの電子マネーで行われる。要所要所にチャージするための専用機があり、現金かカードでの入金ができる。寮に付属の洗濯機を使う場合もこのカードを使うことが多いが、寮にはチャージする機械がない。

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

大学の寮の申し込みが可能。150€~400€。設備条件の一部は、StudierendenwerkのHPに掲載されている。キャンパスから離れている、キッチンなし、インターネット接続なし等、どの寮も一長一短であるが、備考欄に寮の形式(個室式・シェアルーム式など)、スーパー・キャンパスへの近さ、キッチン・シャワー・洗濯機の有無や個数、インターネット接続状況など希望を細かく書くことができ、ある程度考慮される。インターネットについては、大学のネットワークを使える寮と、各寮の学生が独自に契約をする寮がほとんどであるが、寮や部屋によっては回線を引けない場合もある。8月のサマーコースから続けて住めるように寮を手配してもらえるが、現地で留学担当者や入寮担当者の両者のもとに直接問い合わせる必要。

大学の寮以外の物件を探すことも可能。総じて学生寮より費用が掛かる。一般的な学生は複数人で2~5Kのアパートをシェアしている。学生の住宅需要が高く、立地・設備・家賃・家具付き・短期(一年以下)契約等の全ての条件を満たす物件を見つけることは難しい。広告は大学の食堂(Triplex)の一階にある掲示板(公式掲示板、自由掲示板の二種類)やwg-gesuchtというwebサイトに多く掲載されている。webサイトには詐欺広告も多いので、必ず入居前に部屋の見学をし、貸主と契約の確認をすること。部屋の見学に女性一人で行くことはおおむね問題ないが、事件がないわけではないので自己責任のこと。見学や契約書の確認にはドイツ人の友人の協力が得られるとよい。自作の契約書も多く使われているのでよく確認する。過去の連絡は3ヶ月前までが通例だが、自分で次の借主を探さなければいけない場合があるので事前に要確認。

4-2. 食生活について

学食は定食式やビュッフェ式があり、3€程度で女子学生が食べきれない量になる。野菜も多く、ドイツ料理やテーマごとのフェアなども催される。味付けの基調は変わらないので、飽きてしまうこともしばしば。カフェのケーキは1~2€で、サイズは日本の1.5倍はある。昼にはパンやベーグルのサンドを売っている。バーを併設している学食もあり、アルコール飲料もある。学食を使って持ち込みの小規模パーティーなどもできる。一番営業時間の長い学食は、平日・土曜日の深夜1時頃まで席を使用可能。

市内にはレストランやファーストフードも多い。日本食が恋しくなった時には、ネッカー川沿いの日本食レストラン好乃味(このみ)へ。その他のすしバーも興味深いメニューを出しており、日本人のアルバイトを募集している時期もある。ドイツのファーストフードのおすすめは、トルコ料理のケバブ。ドイツでは肉と野菜をピタパンにはさま形式で定着している。スパイスとヨーグルトの組み合わせがおいしい。都市部には必ずと言っていいほどケバブの店があり、2.5€~3€でおなかいっぱい食べられる。HDのおすすめはMarktplatzのYufkas Kebap。

HDにはAldi, penny, LIDL, EDEKA, netto, Kaufland, REWEなどの主要スーパーチェーンが揃い、北部と南部には大規模センターもある。総合的な安さではAldiが支持を得ていた。REWEでは、ドラッグストアのDMやデパートのKaufhofと共通のPAYBACKポイントカードが使える。その他、広場では、週に一回程度の市場が開かれているところもある。アジアスーパーでは割高だが基本的な日本食材が手に入る。相場はREWEや松竹(デュッセルドルフにある日本食スーパー)のHPで確認できる。HDの物価は松竹の表示価格よりやや高い程度だった。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

ほとんどの住宅でインターネットが利用できる。有線LANのみと表示されている部屋であっても、各自でWifiルーターを設置することは可能。形式や契約はそれぞれ異なる。学内回線を利用する場合、個人で契約する場合、建物ごとに数人で契約する場合もある。高速回線が必要な人は要確認。大学回線を使う場合は、eduroamというネットワークが安定していて、何かと便利。

電話番号は必須。契約や旅行時の予約や、安全・安否情報の確認にも多用される。契約は短期でも可能なプリペイド式のもの主流。キャリアはtelekom, vodafone, O2など。通話中心であればさらに格安のsimも存在するらしい。パスポートの提示で即日simカードが発行される。simフリーのスマートフォンなどであれば、そのままカードを入れ替えて使用できる。安い端末を現地で買う場合には60€~。

4-4. 服装について

夏と冬が長かった。10月ごろから3月ごろまで薄手・厚手のコートが必要で、5月からタンクトップにホットパンツのドイツ人が現れた。積雪頻度は低いが、ひざ下あたりまで積もることは例年数回ある。

2014/15はクリスマス後にまとまった雪が降り、7月にはHDで43℃を観測し、高速道路のコンクリートが割れた。冬は寒いが、暖房がよく効いている施設がほとんどなので、厚手のコートの下に薄めの服装でもよい。夏は乾燥していて過ごしやすいが、冷房はスーパーや一部の交通機関にしかなく、建物の上階は日中屋外より暑くなる。シャッターを閉め切ることで室温上昇をかなり防ぐことができる。一年を通して昼夜の気温差は千葉より大きいので、衣替え(日本への返送)のタイミングや取捨選択は難しかった。

4-5. 健康管理について

昼夜の気温差が大きいため、服装に気を使っていたが、天候の変化に振り回された。気温が一気に下がったタイミングで、頭痛や肩こり、だるさを伴う風邪をひいた。それまで風邪を長引かせたことがなく、薬を服用したことがなかったが、日本から持参した葛根湯を服用した。結果的には効き目があり、体調も順調に回復したが、初めての薬を海外で使用することはあまり得策ではなかった。英語の処方箋等がない場合は、薬の説明を医者にすることができないため、万が一の際には危険だったかもしれない。風邪に関しては、引きはじめに効くハーブティーやのど飴をドイツ人の友人に頂いていたので、そういったものを早めに利用してみてもよかったと思う。また、冬には日照時間が短くなり夕方5時前から朝の8時過ぎまで外が暗い日が続く。話には聞いていたが、想像以上に気が滅入った。食堂の冬のメニューであるホットレモン系の飲み物を多く飲んだり、11月後半から街の至る所で開かれるクリスマスマーケットに授業帰りに通うことを楽しみにしていた。旅行の予定を詰め込みがちになるクリスマス休暇、またクリスマスマーケットが終わってテストやレポートが連なる年末から1月ごろに体調を崩す友人も多かった。気持ちの持ち方もうまく管理する必要があった。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

ベルリンを旅行した際に携帯電話の窃盗被害に遭い、OSSMAや携行品保険についてのコールセンターを利用した。近場の警察署の場所が知りたかったが、管轄地域が広いいためか現地の詳しい情報は手に入らなかった。ちなみに、基本的には市内に2人組の警官が多く巡回しているが、その日は他に事件があったらしく、警察署や観光案内所に若干たらい回しにされた。保険申請の必要事項については、きちんと指示もあり、証明書の取得から申請までスムーズに進んだ。利用したOSSMA保険のヨーロッパ事務所はロンドンにあり、書類は郵送で提出した。対応は早く、希望した現地口座へのユーロの振り込みをしてもらうことができた。盗まれた携帯電話についてはたまたま購入時の証明書一式を日本からデータで持ってきていたが、カメラやパソコンについては用意していなかった。購入日や価格が確認できる書類はきちんと管理しなければいけないと反省した。

4-7. 課外活動について

学生の活動が多く企画されている。地域住民が参加するものもある。有料の場合も、学生料金の範囲といえる。

- ・学内体育施設を使った体育プログラム(学期、長期休暇ごと、気軽なものから体育会系なものまで、要運動/室内靴)
- ・学生や地域住民の音楽団体(オーケストラ、合唱団、学生ジャズバーでのセッションなど)
- ・学食でのイベント(映画、サッカー等の試合中継、日曜ブランチ会、フリーマーケット、カラオケなどのパーティー、詩の発表会、ランゲージ・カフェ(多言語)、クリスマスのクッキーづくりetc.)
- ・留学生支援団体のイベント(パーティー、ブランチ会、BBQ、サバイバルキャンプ教室、遊園地への日帰り旅行etc.)
- ・日本語学科のイベント(日本語を話す会、映画会、ゲーム会、タンデム会、忘年会etc.)
- ・大学主催の遠足(ドイツ各地、チケット発売時間に注意、人気プログラムは売り切れ必死、格安、解説話は長い)
- ・学科のイベント(パーティー、博物館等への日帰り研修、大学院生によるチューターシステム、学習相談会)

特に、ドイツ人学生の劇団活動は交換留学生に最適。脚本や演出には現地の住民の方が来る場合もあり、一年を通した活動の中で自然なドイツ語を話すことができるようになる。IDFのプログラムとして開港されており、秋学期から2期連続で参加しなければならない。もう一度留学するチャンスがあったら私も参加してみたい。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外コミュニティとの交流はあまりしなかった。

学内イベントに訪れた現地の方や、HDの街のイベントではドイツ語や英語、ときには日本語で個々にいろいろな人と関わることができた。また、ドイツ人の友達の家庭をクリスマス等の時期に訪問し、教会でのミサや家族の食事に参加させてもらった。

日本語学科主催の日本語を話す会には、日本で就業している方、移住している方、日系2世の方などとお話ができる。ただし、名前の通り日本人や日本語母語話者がほとんどである。タンデムパートナー(母国語話者同士の語学学習パートナー)を探すタイミングとしては良い。その他、日本語学科のタンデムボードには学外の方が募集をだしていることもある。

HDにある外国語学校F+Uには、ドイツ語を学ぶ日本人が多く在籍しており、定期的に日本文化についてのセミナーやイベントを開いていて、日本に興味のあるドイツ人が集まっている。交換留学生とは別の空気感があるが、F+U JapanzentrumのFacebookページは、ドイツやHDの生活情報も発信していて参考になる。

4-9. 日本から持参してよかったもの

・地球の歩き方

前年度の派遣生からドイツの他、ヨーロッパ各国分の数冊を借りた。
荷物がかなり重くなるが、同じような内容のガイドブックはドイツにはない。
限られた時間で多くの場所を訪れたい場合には非常に有用。

・携帯電話の購入証明書(保険申請時に使用、保険の対象になるものには必須)

・携帯マイ箸・スプーン・フォークセット(外出時)

・大判手ぬぐい

手ぬぐいのような生地を二枚合わせた、大判のものを旅行時のタオル代わりに持参した。

かさ張らず、すぐに乾くので旅行で重宝する。

特殊なものではなく、一般的な手ぬぐいでも有用であると思う。

・湿布薬

ドイツではあまり手に入らないと聞いて持参した。運動不足だったのでハイキングの後などに使用。

近年は日本の湿布薬企業の海外進出も進んでいるそうだが、近場では見かけなかった。

・下着

もちろんドイツでも購入できるが、仕様が大きく異なる。

・日本のお土産(折り紙、和小物風キーホルダー、手ぬぐいハンカチ)話のタネに。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

・扉に取り付けるハンガーフック

収納が少ない場合を想定して持参したが不要だった。

また、家具に関しては隣町のWaldorfやMannheimにあるIKEAで大概のものが揃うのでやはり不要だった。

人によって譲れないものは様々なようだった。食べ物、洋服、シャンプー、化粧品、文房具(特にノートの紙が薄い)、調理器具(しゃもじ)、炊飯器etc.

一般的な生活に必要なものはほとんどドイツで買いそろえることができるので、「これだけは！」という自分の中の優先順位と、予算、荷物の空き容量と相談することが肝要ではないかと思った。

逆に、日本から持参すればよかったと思ったものはタブレット端末。授業の資料がデータで配布されることが多いため、日常生活ひいては日本への持ち帰りの際に便利。

こういった端末はドイツでももちろん購入できるが、iPad・iPhoneなどの国際的な商品であっても日本の電波法等に基づいた許可を申請しておらず、日本で利用できない場合があるので要確認。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

学生に関しては留学生も多く文化的背景も多様なので、無法地帯気味。個人的な付き合いの中では、年代が高くなるにつれ、典型的なドイツ人といわれる時間厳守、規則やマナー厳守の傾向があるように感じた。日本人と同じように、最近の若者の素行については議論がされている。近年のドイツで多く見られる、通り沿いのベーカリースタンドに立ち寄ってコーヒー片手に歩きながら朝食のパンを食べるスタイルは断じて「ドイツ文化」ではないとのご意見をいただいた。習慣の違いに関しては街中の買い物等の場面で強く感じた。客や利用者がいても自分の労働時間や営業時間を厳守するため、人員交代のために長い列をつくって待ったり、日を改めて来店したりすることがあった。また、規定通りの仕事をしていれば就業時間内であってもおしゃべりや携帯での通話が許される空気がある。ルフトハンザ航空のチェックインで、終始他のスタッフとおしゃべりをされていたときには驚いた。おしゃべりをしているにもかかわらずきちんと仕事はしているし、質問や意見についてはきちんと対応してくれる。また、係員が自分の業務を把握していない場合が多々ある。それは意識が低いというわけではなく、利用者や客の質問・意見・文句を前提としているようだった。従業員の質問用のコールセンターがあり、すぐに確認をとってくれる場合もあれば、自分は正しいとしてなかなか上司に確認を取ってくれない担当者もいる。おかしいと思った場合には、ほかの担当者にも確認してもらうよう粘り強く訴え続けることが必要である。

ただし、滞在許可取得の際には、習慣の違いだけでなく、現地の役所窓口・大学・関連業者(証明書発行する保険業者など)・地方自治体・在日ドイツ大使館の間での規定があいまいであった。地方分権の制度が背景にあると思うのだが、とにかく各担当者に直接・粘り強く交渉することが基本スタイルであることを思い知った。

自分自身の習慣では、アイコンタクトが多少問題になった。何かを思い出すときに目を宙に泳がせるしぐさが、日本人を感じる以上に不信感を抱かせているようだった。日本にいたころには、どちらかという目を見つめすぎるとして注意されていたので、ショックな点でもあった。意識してみると、ドイツ人は私以上にまっすぐに目を見つめてくることが多いことに気づき、自分がいわゆる「日本人」の要素をしっかり持っていることを再確認した。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

・日帰り、大学主催の遠足、15~25€
ライン川下り(マインツ・リューデスハイム周辺)、黒の森、バーデン・バーデン、プファルツ、ケルン、ニュルンベルク、シュトゥットガルト、ストラスブール、バンベルク、アウグスブルク、ウルム、ローテンブルク、ヴェルツブルク)
・ミュンヘン、フュッセン、2泊3日、90€
・ハンブルク、ブレーメン、大学遠足、2泊3日、110€+30€
・ベルリン、ポツダム、カッセル、ケルン、アーヘン、デュッセルドルフ、5泊6日、500€
・ローマ、ポンペイ、ヴェネツィア、5泊6日、450€
・ベルリン、大学遠足、3泊4日、125€+40€
・ザルツブルク、ウィーン、グラーツ、6泊7日、450€
・ブラチスラヴァ、ブダペスト、クラフク、プラハ、9泊10日、600€
・ロンドン、4泊5日、650€
・バルセロナ、3泊4日、550€
・ブリュッセル、アムステルダム、コペンハーゲン、3泊5日(1列車泊)、600€
・インスブルック、クール、ツェルマツ、コンスタンツ、4泊5日、600€
・パリ、2泊3日、450€

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

予定のない日は引きこもりになりがちなので、散歩や買い物とうで一日一回以上は外出するように心がけた。HDの周辺の街にも、世界遺産があったり、地球の歩き方に載っていたりと、半日旅行に適した場所が多い。特にSchwetzingenにある宮殿の庭には桜が植えられている区画があり、3月下旬から4月上旬ごろにお花見ができる。留学も半ばで日本の景色を忘れかけていた時期だったので、よいリフレッシュになった。

HDは旧市街地が破壊されずに保存されているため、市の中心部に新しい商業施設は少ない。映画館は街に2か所で、どちらも非常にレトロであり、上映時間・作品も限られる。隣町のMannheimは商業都市であるため、ある程度買い物などを楽しむことができる。また、日曜には一部飲食店以外の多くの施設が休業するため、多くの人が散歩や日光浴などをして過ごしている。都会が好きな若者が休日を過ごすにはやや退屈であるようだ。暖かくなるとどこに行っても皆BBQをするようになる。ネッカー川沿いは人混みと煙でほぼ埋め尽くされる。簡易グリルセットなどがスーパーで全面に売り出されるので、設備がなくても気軽にBBQができる。

その他には食堂で話をしたり、一緒に料理をしたりするなど友人たちと過ごす時間が長かった。HDでは様々な人と関わって議論することができて刺激的な面もあるが、その中で国籍・言語・職業・専攻・趣味・性別・年代・進路の悩みなどのなにかしらの共通点を見出して語る時間があることは非常に心が落ち着いた。渡航前に思っていた以上に見知らぬ土地で生きることによってストレスを感じていた部分があったと、留学終了後に振り返ってみて思う。ただし、母国語話者による言語グループは非常に形成されやすく、かつ周囲との関わりを絶つ要因になりやすいため注意が必要。しかし、有事の際を考慮すると、コミュニティでの情報共有をできないことは必ずしも好ましいとは言えない。関わるコミュニティを限定するのではなく、TPOに合わせたコミュニケーション方法を考慮するべきであると感じた。

5. 報告 * 5-1~4は、年度末発行の冊子「海外派遣留学報告」の原稿となります。

5-2. 留学先大学について(150~200文字)

ドイツ最古の大学で、市内に施設が分散している。主にアルトシュタット(旧市街地)/人文科学系・ベルグハイム/社会科学系・ノイエンハイム/自然科学系の大きく3か所のキャンパスに分かれており、学食も充実。学部や教室によっては、旧市街地やハイデルベルク城を眺めることができる。学生の17%が留学生であり、自然科学系では英語での授業やコースも多い。中世の佇まいを残す街並みが、学生の活気と国際性で彩られている。

5-3. 留学中の様子(450~500文字)

ドイツ語学部にも所属し、ドイツ語の授業と並行して文学や文化に関するゼミに参加した。自分から手を挙げて行けば、授業担当やチューターからサポートを受けることもでき、留学生であっても学びやすい環境である。また日本学科などの学生ボランティアが留學生活のサポートを行ってくれる。授業についていくためには予習復習が欠かせないが、専門の知識とともにタンデム学習(母国語を教えあう学習方法)で個人差のある生きた話し方を勉強する必要があった。学部や図書館で論述式試験の勉強の仕方や、小論文の書き方指導や授業を行っていることもある。

生活においては、留学当初から大学の寮に入らずに自分で部屋探しに挑戦し、契約・入居が決まるまでは仮住まいを転々としていくことになった。ホームレスになる心配はないとはいえ、見知らぬ土地で人生初めての部屋探しや引っ越し作業を繰り返したため、留学開始から大きな孤独感を体験した。しかし、部屋探しの過程で様々な人と関わることができ、初めに大きな問題を乗り越えたため、その後は「情報を集めて自分から動けば大概のことはなんとかなる」という気持ちで物事に挑戦していくことができた。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

気になったらやってみること、足を運ぶこと、人と意見を交わすこと、情報を集めること。いろいろな世界に触れ、たくさんの人と関わることで、自分の可能性を広げることができる。その時、その場所でできることに打ち込んだ経験は、必ず自分の肥やしになる。海外の大学で学ぶ機会は生きている限り無限にあるが、派遣留学生という身分でサポートを受けながら挑戦ができ、世界中にいる同世代の人々と語り合う時間は、人生の先輩方の誰もがうらやむほど貴重な機会。海外で生活していると、さらに多様な機会に巡り合うことになるだろう。大きな挑戦の前には二の足を踏ませる悩みも必ず付きまとうが、もっと知りたい・やってみたいという素直な気持ちを大事にして、興味ある世界に自分から一歩踏み出す、自分の想いを口に出す心意気が大切。なお、ドイツに留学する場合は自分の想い(疑問・クレーム)を口に出すことがスタート地点であることを努々お忘れなきよう。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

専門科目はもちろん、ヨーロッパや世界の動向やそれに対する意見により関心を持つようになった。物理的・制度的に人やモノの行き来が容易な環境であるという背景もあってか、自国以外の時事についても殴り掛からんばかりの勢いで熱い議論が交わされているのを目の当たりにして、多様な考え方を知りつつ、日本に帰国してから外にも目を配っていかなければいけないと感じた。

就職活動はドイツや文学とは直接関係なく、海外駐在等もない分野で行っていたため、「せっかく経験があるのにもったいない」と言われることも多々あったが、留学で得た「国際的」「グローバルな」経験や自分の意見をもって進んで行動する経験は海外法人向け・海外駐在中だけでなく、国際化やグローバル化が進む日本国内においても大切になってくる、と個人的には考えている。

所感としては、中小企業を中心に海外経験や語学力のある人材の需要はあるように感じたが、あくまで海外留学中は成長の機会が若干多いというだけで、留学自体は大きく有利不利になる条件ではない。私は個人での海外滞在で休学1年、派遣留学で留年1年したため、その点については必ず質問された。この点に関しては、内容がしっかりしていてもプレゼンテーションで堂々と振る舞わなければ、不信感をぬぐうことはできない。覚悟はしていたが、学費の面だけではなく就活の場面でも、4年間で卒業できることが派遣留学の大きなメリットであることを再確認した。

ハイデルベルク大学には4月から1年間の日本人交換留学生も受け入れられており、春渡航組の今年度の就活への影響は少ないようだった。ドイツの夏学期終了時期は派遣国の中でも最も遅く、北米留学者をターゲットに据えた6月の選考には参加できなかった。派遣プログラムの運営との兼ね合いもあるが、「就活」という面では春渡航に大きなメリットがあった。(今後の就活スケジュールの変動による)

帰国翌日から始めた本格的な就活のスタートに向けて、留学前のキャリアフォーラムの見学ツアーやヨーロッパの学生に向けて今年5月にロンドンで行われた選考会には参加することができ、仕事に対する意識など良い準備ができたと思う。留学中に企業の人事に相談に乗ってもらったり、選考を進めることは可能だったが、帰国後の対面面談や企業訪問によって学べることの方が数倍価値があるので、1年間という短い留学期間を費やしてまで就活を進める意義はあまり大きくない。確実に就職したい業界・企業がある場合は当然この限りではないが、そこは自分の中の優先順位との兼ね合いである。

言語能力を維持向上させる機会は趣味・ボランティア等を通して作っていき、人との交流や情報収集の幅を広げるために活かしていきたい。

お疲れ様でした